

会 議 録（議事要旨）

会議の名称	令和7年度 第3回茨木市自転車利用環境整備計画協議会
開催日時	令和8年2月27日（金） 午後1時30分開会 午後2時40分閉会
開催場所	市役所南館8階 中会議室
議 長	塚口 博司
出席者	（公募市民） 宮島 一幸 （学識経験者） 塚口 博司、吉田 長裕、中井 宏 （関係団体から推薦された者） 藤本 典昭、岡本 清志 （関係行政機関の職員） 佐治 嘉朗、安部 弘勝、父川 真吾（代理：中山） 【9人】
欠席者	（公募市民） 湊 絢子 【1人】
事務局職員	足立副市長、福田建設部長、砂金道路課長、福岡建設管理課長、 山脇交通政策課長、泰田教育政策課長、岡田学校教育推進課参事 谷山交通政策課参事、戸田計画推進係長、吉川主査、廣岡 【11人】
開催形態	公開
議題	(1) パブリックコメントで提出された意見及び市の考え方（案）について (2) 茨木市自転車利用環境整備計画（案）について
配布資料	資料1 配席図 資料2 委員名簿 資料3 前回協議会で頂戴したご意見とその対応 資料4 パブリックコメントで提出された意見及び市の考え方（案） 資料5 パブリックコメント後の修正について（新旧対照） 資料6 茨木市自転車利用環境整備計画（案） 資料7 答申書（案）
傍聴人	0人

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
福 田 建 設 部 長	(1) 開会挨拶
事 務 局	(2) 議事1：パブリックコメントで提出された意見及び市の考え方(案)について 議事2：茨木市自転車利用環境整備計画(案)について 〔事務局より説明〕
塚 口 会 長	議事1について、質問や意見があればお願いします。本日が計画改定にあたっての最後の協議会であることに留意されたい。
藤 本 委 員	資料3、4ページ「交通安全教育」について、前回協議会で「今後10年間の進め方の方針を示してほしい」とお願いした結果、令和6年度の実施回数が計画書52ページに記載されたものと認識した。 更に、計画書47ページには「今後実施する事業を示す」と記載されているが、示されているのは現在実施している事業である。世代によっては空欄の部分もあり、空欄を埋めることが今後取り組むべき課題ではないか。市内の事故状況に応じて必要な教育を提供していくなど、担当部署を定めて継続的に取り組む旨を計画書に明記いただきたい。
事 務 局	52ページの表は現在実施している交通安全教育を整理したものであり、引き続き警察と連携しながら取組を進める考えである。 ご指摘のとおり、市内の事故の特徴等を踏まえ、不足する部分があれば警察とも調整しながら補完していく必要がある。空欄部分の安全対策・安全教育についても検討していく。文言の追記も検討する。
中 井 委 員	47ページに「今後実施する事業」とあるが、52ページの表は現在実施している事業を記載しているように読めるため、今後実施する事業に関して追記が必要ではないかと考える。教育内容の充実や実施回数を増やすといった方向性もあり得る。 また、他自治体で実施されている、駅や健診会場など日常の様々な場面で交通安全の情報に触れる機会を増やす啓発方法も参考になると思う。 次に、資料5の駅名表記の修正について、意図を確認したい。 最後に、通行空間の整備について、整備延長が記載されているが、例え

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事 務 局	<p>ば東西通りで矢羽根表示が薄くなっている箇所がある。一度整備して完了ではなく、継続的な更新についても取組方針に明記すべきではないか。更新については、随時実施することが前提であり、あえて記載はしていないということか。</p> <p>ライフステージ別の交通安全教育については、少なくとも現行の実施内容を継続することとしており、プラスアルファについては事故状況等に応じた取組を検討する。52 ページの表に具体的な追記を行うことは難しいが、文言を補記することで対応したい。</p> <p>駅名の修正については、表や図では表記を正式名で統一し、本文中はJR や阪急等の名称を残す形で整理している。</p> <p>路面表示については一度整備すれば完了とは考えていないので、表示が薄くなっている箇所は適宜更新する。</p>
塚 口 会 長	<p>矢羽根には、主に二つの役割があると考え。一つは、自転車の通行位置を明示し、利用者に安全かつ適切な走行を促すこと。 もう一つは、自転車も道路を利用する一員であることを視覚的に示し、全ての道路利用者に対し、その認識を促す啓発的な役割である。 これらの観点から矢羽根は非常に重要であり、特に交通量の多い箇所においては速やかな再整備が必要である。一方、生活道路等の再整備の優先順位が下がることはやむを得ない。</p> <p>市としての設置目的を明確にし、必要箇所を重点的に更新していくことが重要である。</p>
岡 本 委 員	<p>資料4、1 ページのパブリックコメントへの回答について、自転車駐車場の満空情報に関する URL を示しているが、デジタル機器の操作に不安がある方からのご意見に対し、この回答は適切でないように思われる。</p> <p>自転車駐車場の入口等にデジタルサイネージを設置し、近隣の自転車駐車場を含めた空き状況をリアルタイムで表示することはできないか。近隣施設の空き状況が分かることで「駐輪場が不足している」という印象を緩和し、放置自転車の抑制や自転車駐車場の利用促進にもつながると考える。</p> <p>また、駐輪料金の改定を検討される際にも、自転車駐車場の利便性向上と料金の見直しをセットで進めることで、市民の理解が得やすくなる。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事 務 局	<p>まず、パブリックコメントの回答についてだが、デジタル機器の操作が困難とのご意見と、自転車駐車場の満空情報に関するご意見は別の方からのものであり、満空情報の案内は後者の意見への回答として記載している。ただし、後者についてもスマートフォンの利用可否は文面から判断できないため、その点については課題と認識している。</p> <p>自転車駐車場での満空情報の表示について、デジタルサイネージが設置されている自転車駐車場は限られている。さらにリアルタイムの満空情報を表示できるかどうかは、技術面や運用面での確認が必要。ただし、満車時に他の自転車駐車場を案内できる仕組みは、利用者ニーズに応えるものとして有効であるため、前向きに検討させていただく。</p>
宮 島 委 員	<p>安全教育について、計画書への記載が実施実績の記録に留まっており、どのような効果が得られたかが不明である。教育の目的は実施することではなくルールや意識の定着であるため、その意義を評価できるよう、効果検証の仕組みを導入すべきである。</p> <p>特に、小学生や高齢者への教育が喫緊の課題であり、講習受講者へのインセンティブ付与など、継続的な関与を促す仕組みも検討すべき。形式的な実施回数の記録に留まらず、実施後のアンケートにより効果を検証しながら次回に反映させていくなど、PDCA サイクルを意識した教育のあり方を計画に盛り込んでいただきたい。</p>
塚 口 会 長	<p>道路整備の延長など事業の実施状況を示す指標が「アウトプット指標」であるのに対し、その結果として生じた効果を示す指標が「アウトカム指標」である。教育の分野では特に、どれだけ実施したかではなく、実施によって何が変わったかを問うことが重要であり、教育の効果測定は難しいが、追及すべき方向性であることは確かである。</p>
事 務 局	<p>計画書に細部まで記載することは難しいものの、効果的な手法を常に研究・改善していく考えである。教育内容は、市内の事故状況や法令改正等も踏まえ、警察と連携のうえブラッシュアップしていく。市内の小中学校については全校を対象に、高校については希望校を募って交通安全教育を実施しており、ライフステージ全体を通じて一定の教育機会は確保している。ただし、それが事故の減少に直結しているか否かの判断は難しく、教育効果の測定は容易ではないが、現場からのフィードバックも参考にしながら内容の改善に努める。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
藤 本 委 員	<p>交通安全教育については、他の自治体の計画や先進的な取組を参考にしながら、本市の実情に合った手法を取り込み、取組姿勢が伝わるよう記載内容を工夫していただきたい。</p>
中 井 委 員	<p>警察庁がライフステージ別の交通安全教育に関するガイドラインを示している。本計画の性質上、個別の教育内容まで記載することは難しいかもしれないが、国が示すガイドラインや他の自治体の好事例を積極的に取り入れていく旨の記述を加える形が良いのではないか。</p>
吉 田 委 員	<p>計画書において、会長が提示した「アウトプット」と「アウトカム」の視点をキーワードとして位置づけ、各ライフステージ・対象・課題に対し「アウトカムを意識しながら実施する」という趣旨の文言に改めることを提案する。</p> <p>また、「官民連携」も重要なキーワードとし、行政や教育機関だけでなく、外部の関係者が「教育による改善」という形で参画し、取り組みが広がる仕組みへの転換が求められる。この流れを踏まえ、計画書への反映をお願いしたい。</p>
塚 口 会 長	<p>前回協議会で分析が不十分との指摘があったが、何でも詳細に分析すればよいというものではなく、重点を絞った分析が重要となる。どの点に着目して分析を深めるのかを一文付け加えることで、方針がより明確になるのではないか。</p>
事 務 局	<p>前回の協議会でのご指摘を受け、事故の詳細分析を行った。</p> <p>まず10年間の年次推移では、大きな変化は見られなかった。次に、JR茨木駅周辺と阪急茨木市駅周辺で事故状況を比較したところ、10年間の累計件数で阪急周辺がJR周辺の約4倍に上ることが判明した。また、阪急周辺では、事故の約6割が出会い頭であり、JR周辺と比較して際立って多いことを確認した。</p> <p>これを受け、阪急茨木市駅周辺の事故が集中する時間帯に自転車通行状況の現地調査も実施している。面的な路面表示の整備は阪急茨木市駅周辺を優先的に実施したいと考えている。</p> <p>計画書には記載していないが、協議会でのご意見を踏まえ、多角的な視点から分析を継続している。</p>

議 事 の 経 過	
発 言 者	議 題（ 案 件 ） ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
塚 口 会 長	<p>今後も重点的な事故分析を継続し、個別施策へ反映いただきたい。</p> <p>本日いただいたご意見を適切に計画へ反映することを前提とし、茨木市自転車利用環境整備計画の最終案は妥当であると判断してよろしいか。</p>
一 同	異議なし。
塚 口 会 長	<p>それでは本協議会として、これまでの議論を踏まえた答申を行う。</p> <p>〔事務局より説明〕</p>
塚 口 会 長	<p>計画書の修正については私と事務局で調整し、その結果を市長に答申することとしてよろしいか。</p>
一 同	異議なし。
足 立 副 市 長	<p>(3) 閉会挨拶</p> <p style="text-align: right;">(以上)</p>